

平成27年度復興支援の担い手の運営力強化実践事業

いわて文化支援ネットワーク通信

アシスト・なう

15号

発行日
平成28年1月21日

発行: 特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター / 印刷: 杜陵高速印刷株式会社

「あの日から」
出版記念朗読劇&アフタートーク

はじめに

平成23年3月の東日本大震災直後、作家・高橋克彦氏の発案により、県内在住の作家12名による短編集「12の贈り物」が発刊された。いわてアートサポートセンターでは、翌年5月から9月にかけて、被災地や県内各地、東京において、この12作品の朗読公演を実施した。

まもなく震災から5年の節目を迎えるにあたり、昨年10月、「12の贈り物」の第2弾「あの日から」が発刊された。岩手県生まれの12人の作家が東日本大震災後に震災をテーマに書いた短編小説が収められており、震災により幾多の困難を受けた被災者・関係者の苦悩や希望が綴られた、どれも後世に残していきたい作品ばかりである。この「あの日から」に収められた作品・全14話をそれぞれ朗読劇として県内各地で上演し、東日本大震災を語り継いでいきたいという思いから、この朗読劇公演を企画した。

また、いわて文化支援ネットワークが平成26年度に実施した「文化芸術活動に興味を持つ市民意識調査」の結果、「後継者不足」「指導者不足」「子どもの芸術文化体験」については地域を超えて多くの方々が今後の課題として挙げており、共通の問題意識であることが浮き彫りとなった。このことから、実際に被災地で文化芸術活動を行っている方をお招きし、この3課題をメインテーマとした「被災地の文化芸術活動の今後」について話し合うアフタートークを朗読劇終了後に実施した。

今回は、岩泉・陸前高田・大船渡で実施した各公演の様子と、陸前高田・大船渡で実施したアフタートークの様子をお伝えする。

岩泉公演

演目▽「スウィング」(作: 大村友貴美 演出: 山泉)
日時▽平成27年11月11日(水) 14時
会場▽小本生活改善センター
出演▽早野由紀子ほか

「あの日から」出版記念朗読劇の第1弾となる「スウィング」は、岩泉町小本にある小本生活改善センターで上演された。

金石市出身の大村友貴美さんによつて書かれたこの作品の舞台は、「あの日から」から4年が経過した岩手県沿岸地域。今は東京で暮らす主人公の女性が、岩手県沿岸の故郷に帰省し、隣の家に住んでいた巧と十数年ぶりに偶然の再会を果たす。主人公を演じたのは、岩泉町在住の早野由紀子さん。プロとして東京で活躍していた早野さんの語りは、芯がありながらも柔らかく、いつまでも聞いていたくなるようだった。また、巧や祖父、母など、様々な登場人物の役は、岩泉町地域づくり支援協議会の山口成明さんら、岩泉町在住の皆さんにもご協力いただいた。



岩泉公演の特徴は、当法人と岩泉町在住のプロ演劇経験者として朗読劇初体験の方々が、手を携えてひとつの作品づくりに取り組んだという点にある。かつてわらび座に所属し、現在は岩泉町在住の演出・山

山泉さんと、前述の早野由紀子さん、そして地元の方々が出揃った。これをきっかけに、魅惑ある舞台を創り上げた。これをきっかけに、今後も岩泉町で朗読劇が継続的に上演され、地域の方々にとつて演劇活動がもっと身近なものになり、文化芸術を通じた地域の活性化が実現出来ればと感じた。

陸前高田公演・
アフタートーク

演目▽「海から来た子」「風待ち岬」
「お地蔵様 海へ行く」(作: 柏葉幸子 演出: 坂田裕)
日時▽平成27年12月12日(土) 14時
会場▽竹駒地区公民館 集会室
出演▽中山恭善、永井志穂、星佳奈、伊勢二朗、菊池大成(ピアノ演奏)
アフタートーク出演▽柏葉幸子(作家)、菊池大成(ピアニスト)、菅野修一(根柢梯子虎舞)、菅野健(気仙酔鼓伝)

朗読劇

陸前高田市では、盛岡市出身・在住の柏葉幸子さんの作品を上演した。ある春の日、菜の花畑の中で見つかった、ずぶ濡れの子ども。海来(みく)と名づけられた子どもと、海来を家族として受け入れたあつちゃんとの日常を四季の移ろいとともに描いた「海から来た子」をはじめ、「風待ち岬」「お地蔵様 海へ行く」の短編3作品。聞いているだけで頭の中に情景が美しく浮かび、想像力をかき立てられるのは、朗読とピアノ演奏との相乗効果の賜物なのだろうと感じた。朗読と演奏の息がピッタリ揃っており、さながら朗読と演奏とが「会話のキャッチボール」をしているようで、非常に印象的だった。

アフタートーク

朗読劇終了後に行われたアフタートークでは、陸前高田地域で文化芸術活動に携わる方々をお招きし、「あの日から」のことや今回朗読された作品のこと、そして「被災地の文化芸術活動の今後」について貴重なお話を聞くことができた。

《1》作品について

◆柏葉幸子：自分は盛岡在住なので、どうしても沿岸で被災した方々とは温度差があるかもしれないが、それでも「被災地の子どもが今どんなことを思っているのか、どんな状態なのか」ということを全国の方々に分かってもらいたいという思いで、今回上演した短編を書いた。

◆菊池大成：言葉の持っている力や役者の力、言葉の力、たくさん力を受け取って、1つの作品が出来上がるのだと感じた。今日ここにきて来てくださった方々と出会えたことも、作品の化学変化に繋がる。明日の大船渡公演でも、更に新たな化学変化が生まれてくると思う。



◆菅野健一：「あの日から」を読んでから、朗読劇を見た。読み手と音楽の力で、奥行きが感じられ、世界がよりいっそう広がった。とても良い試みだと思える。これからも是非続けてほしい。

ではなく、こういった楽しみ方もあるのだなと思った。

《2》子どもたちの文化芸術体験

◆柏葉幸子：最近の子どもたちは、本を読む子と読まない子とがはっきりと分かれているように思う。また、読解力も落ちているように感じる。自分は今、5・6年生向けの本を書くことになった場合でも、3・4年生向けのつもりで書くことが多い。図書館にもっともっとたくさん本があるといいなと感じる。

◆菊池大成：自分は東京でピアノを教えているが、同じような感想を持っている。楽譜も言うなれば記号であり文字の一部であるから、それをどう読み取るかが問題。フォルテだから大きく弾けばいいというものではなく、楽譜に書かれたものをどう読み取り、どう感じて弾くかが大切。豊かな体験が読解力を作っていくと思うので、子どもたちの文化芸術体験は非常に大切だと感じる。自分が子どものときに経験したこと、積み重ねが、今こうして奏でて音に直結している。子どもたちの体験、例えば赤とんぼを捕まえた雪に触ったり、そういった経験が、人の心に厚みを作るのではないか。

《3》後継者の不足

◆菅野健一：以前は、地元に残る若者が少なくなってしまうこともあり、後継者の不足が深刻だった。なかなか若者や子どもにその魅力を伝えることもできず、なんとかしなければと思った。そこで、これまで門外不出としていた梯子虎舞を、あえて他地域で演奏してみたいところ、それが子どもたちの目にとまり「かっこいい、自分もやってみよう」と言われるようになった。今では10代から70代までの幅広い年齢層の人々が集まり、虎舞を通じてひとつになつている。子どもたちには「ゆくゆくは、おまえたちが主役になるんだぞ」と話している。

わらず、震災当時のあの頃に気持ちがいれられ、少し辛かった。東京や内陸で上演するにはとても良いと思うが、あの頃の痛みがそのまま戻ってくるので、辛くて悲しかった。これから先の未来を見て歩いていきたいので、そういった作品の上演を希望したい。

《2》子どもたちの文化芸術体験

◆江刺由紀子：「おはなしころりん」の活動の中に「地域民話を紙芝居にする」というものがある。気仙民話を、気仙弁で紙芝居の原稿として起し、絵は中学生や高校生に描いてもらう。美術部みんなが相談しあって時代考証をしたり、地元の文化に触れながら絵の描き方を学んだり。子どもたちにとって「社会貢献」という自信に繋がっている。



◆柏葉幸子：インターネットやスマートフォンの普及により、今の子どもたちは、実体験なしに、バーチャルな世界だけで様々なことを知ることができてしまう。本を読まなくて生きてはいけるが、読むことで人生に厚み

が出ると思う。自分で体験して、触って...ということをしてもらいたい。



◆菊池大成：見たり話したり、時にはいたずらしたり、そういった様々な体験が層のように重なったときに初めて見えてくるものもある。文化芸術体験といっても、けっして著名な本だけを読ませるとかそういったことではなく、様々な体験が絡み合ったときに、その結果として文化芸術体験というものが成立してくるのではないか。

《3》後継者の不足

◆江刺由紀子：読み聞かせや、洋書の子どもの手に届けるという活動をしている。ひとりひとりに大きな力はないが、本の持つ力や、文化の力を信じて活動が続いている。たくさんの方々の支援を受けて、そのおかげで立ち上ることができたので、ここからは自分たちの力で立ち上がることが大事。現在、会員は35名で、震災後ほとんど会員数が増えている。会員は20代の社会人から、83歳まで。

◆平山睦子：自分が所属する「あかね詩の会」は、現在、会員7名。月に一度、作品を持ち寄り、朗読をしている。一般の方々にも、どんなことをしているのかを気軽に見に来てもら

ている。

《4》指導者の不足

◆菅野健一：太鼓の場合、そのグループの中でいちばん腕が立つ人が指導者になることが多いが、必ずしも「いちばん腕が立つ人」高い演奏力を持つ「人」というわけでもないのが現状。音符のとおり叩けない指導者では、教わる方も技術が身に着かない。



◆菅野健一：外に出てみることで、子どもたちが外の景色を見て、「もっと上手になりたい」と思うようになる。積極的に外に出て、よいものを感じ、持ち帰ることが大切のように思う。

《4》指導者の不足

◆江刺由紀子：特に指導者は居ない。会員同士、お互いに信頼関係が築けているので、お互いがお互いを指導しあい、学びあっている。

《4》指導者の不足

◆平山睦子：お互いの詩を聞いて共感したり、講評し合ったりしている。とても素晴らしい先輩がおり、その先輩の詩を聞いていつも感銘を受けている。



大船渡公演・アフタートーク

演目▽「海から来た子」「風待ち岬」「お地蔵様 海へ行く」(作：柏葉幸子 演出：坂田裕)
日時▽平成27年12月13日(日)14時
会場▽福祉の里センター 視聴覚室
出演▽中山恭尊、永井志穂、星佳奈、伊勢一朗、菊池大成(ピアノ演奏)
アフタートーク出演▽柏葉幸子(作家)、菊池大成(ピアニスト)、江刺由紀子(読書ボランティア)おはなしころりん代表、平山睦子(詩人)

朗読劇

大船渡市では、陸前高田市と同じく、盛岡市出身・在住の柏葉幸子さんの3作品を上演した。驚いたことに、昨日とは演奏の様子がまた少し違っていた。前日の陸前高田公演で菊池大成さんが「明日の大船渡公演でも、更に新たな化学変化が生まれてくると思う」と仰っていたのはこのことか、と納得した。会場が変わり、また違うお客様がいらしたことで、会話のキャッチボールにもまた変化が現れたのだろう。読み手もまたその変化を感じ取り、しっかりとその会話を受け取り、返していく。昨日と同じ作品だが、昨日とはまた違った仕上がりとなった。

アフタートーク

陸前高田公演と同様、朗読劇終了後にはアフタートークを実施し、様々なお話を伺った。

《1》作品について

◆江刺由紀子：戻りたい戻りたくないに開

「感謝の第九」稽古場レポート

かつて音楽の溢れる街であった宮古は、少子化や慢性的指導者不足によって低迷の時期にあつた。そんな状況に東日本大震災大津波は容赦なく襲いかかり、芸術の復興には多大な時間と労力を要した。一昨年の12月にリニューアルオープンを果たした宮古市民文化会館は「心の復興」と「次世代育成」がキーワードであるが、市民参加の企画として「第九」を取り上げることとした。当初は30〜40人集まるかどうかかわらないとの予想に反して、100名を超える応募があり、練習も回を重ねることに熱気を帯びている。小原一穂氏の指導は楽しさあふれる練習でありながら高い専門性を兼ね備えた素晴らしいもので、宮古市民の合唱の飛躍的レベルアップにつながっている。また、特別講師として佐々木正利岩手大学教授を招聘し指導を受ける機会を設ける事ができた事は、宮古市の合唱史に於いて画期的な出来事と言える。合唱参加者は、難しいドイツ語の発音をマスターし、ベートーヴェンの交響曲の崇高な音楽の真髄に近づきつつあり、オーケストラとの共演を心待ちにしている。苦悩から歓喜へ...のテーマの通り震災を乗り越えた皆さんは、復興支援への感謝を胸に、共に歌うことの喜びを噛みしめている。

(寺崎巖)



いわてフィルハーモニー・オーケストラ
 スペシャルコンサート2016「感謝の第九」
 ベートーベン作曲 交響曲第9番 二短調「合唱付」作品125

- 2016年2月13日(土) 14時 開演(開場 13時30分) 宮古市民文化会館大ホール
- 入場料⇒ 一般…2,000円(当日2,500円) / 高校生以下…1,000円(当日1,500円)
- チケット取扱⇒ 宮古市民文化会館・マリコープDORA・リラパークこなり・キャトル宮古・かんの書店
本店・もりおか町家物語館
- 問合せ⇒ ☎ 0193-63-2511 (宮古市民文化会館)

主催事業イベント情報



「あの日から」出版記念朗読劇公演

岩手県出身の作家12人による、東日本大震災をテーマとした短編小説のアンソロジー「あの日から」が、平成27年10月11日に発刊されました。いわてアートサポートセンターでは、それらの作品を朗読劇として県内各地で上演し、震災の記憶を語り継いでいきます。

**1月・2月
公演情報**

朗読劇『長靴をはいた犬』

【料金：前売…一般 1000円 学生・シニア 800円
 当日…一般 1200円 学生・シニア 1000円】

《作》久美沙織 《演出》佐藤桐華 《出演》佐々悠

◆1月23日(土) 19時・1月24日(日) 14時
 会場：いわてアートサポートセンター風のスタジオ

朗読劇『事故の死角』《作》北上秋彦

朗読劇『風待ち岬』《作》柏葉幸子

《演出》坂田裕一

《出演》浅川真道・清水恵・濱田雄太・清藤望・
小館秀樹・山井真帆・大谷ちひろ

《ピアノ演奏&音楽》坂ノ上みゆき

◆2月14日(日) 13時30分
 会場：軽米町中央公民館

◆2月14日(日) 18時
 会場：二戸市シビックセンターホール
 [2/14…2会場共料金：前売…500円
 当日…700円]

朗読劇『水仙月の三日』

【料金：前売…一般 1000円 学生・シニア 800円 当日…一般 1200円 学生・シニア 1000円】

《作》澤口たまま 《演出》藤原正教 《出演》小野寺齊子・永井志穂・橋本佳織

◆1月31日(日) 14時 会場：もりおか町家物語館 浜藤ホール

朗読劇『加奈子』【料金：前売…1000円 当日…1200円】

《作》平谷美樹 《演出》盛合直人

《出演》畑中美耶子・大塚富夫・坂口奈央・江幡平三郎・甲斐谷望・米澤かおり

◆2月7日(日) 13時30分 会場：宮古市民文化会館 中ホール

◆2月21日(日) 14時

会場：いわてアートサポートセンター風のスタジオ

【料金：前売…一般 1000円 学生・シニア 800円
 当日…一般 1200円 学生・シニア 1000円】

朗読劇『あの日の海』【料金：前売…一般 1000円 学生・シニア 800円 当日…一般 1200円 学生・シニア 1000円】

《作》斎藤純 《演出》東海林浩英 《音楽プロデュース》斎藤純 《出演》河辺邦博・千葉伴・上野敏明・東海林千秋・斎藤純

◆2月14日(日) 14時 会場：いわてアートサポートセンター風のスタジオ

いわて文化支援ネットワーク

〒020-0878 岩手県盛岡市肴町4-20永卯ビル3F
 NPO法人いわてアートサポートセンター内
 ☎019-604-9020 FAX:019-604-9021
 E-mail:kaze@iwate-arts.jp
 http://ibsn.web.fc2.com/

●支援金振込先(振り込み手数料は負担願います)

■みずほ銀行 盛岡支店(普) 1190698*

■ゆうちょ銀行 店名【八三八】(普) 0808732*

※いずれも口座名：いわて文化支援ネットワーク

■岩手銀行 中ノ橋支店(普) 2044173

口座名：いわてアートサポートセンター文化支援 代表 坂田裕一

現在の支援金総額 **10,184,422円** (平成28年1月8日現在)

ご支援、ご協力
 ありがとうございます。